

第35回 創価グロリア吹奏楽団

# 定期演奏会



SOKA GLORIA  
WIND ORCHESTRA  
35<sup>th</sup> Annual Concert

2022年 2月27日 日

東京芸術劇場 コンサートホール

Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

17:00開場／18:00開演



本日は、創価グローリア吹奏楽団 第35回定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

一昨年、昨年は新型コロナウイルスの影響により、演奏会を中止せざるを得ない状況となりました。まだ予断を許さぬ昨今の状況下ではございますが、皆様のお心を少しでも軽くできればとの思いで、楽団員一同、準備に取り組み、本日を迎えさせていただきました。

聴いてくださる方々に勇気と希望をお届けする——これが私たち、創価学会音楽隊の使命であるとの

自覚のもと、これからも多くの方々に勇気と希望をお届けできるよう、楽団員一同、感謝を胸に、人格、技術ともに更なる向上を目指して参ります。

日頃から渾身の指導をしてくださっている小澤俊朗先生、中村睦郎先生、講師の先生方、また本日も来場くださった皆さま方を始め、応援くださる皆さまに心より御礼申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

本日は最後まで、ごゆっくりとお楽しみください。



## 創価グローリア吹奏楽団

SOKA Gloria Wind Orchestra

創価学会音楽隊の中央楽団として、「音楽隊第一吹奏楽団」の名称で発足。1980年に「創価学会東京吹奏楽団」と改称。1997年に第45回全日本吹奏楽コンクール（主催：全日本吹奏楽連盟・朝日新聞社）に出場を果たし、金賞を受賞。同年11月1日に、「創価グローリア吹奏楽団」と改称。その後、2000年に2度目の金賞を受賞。2002年より2004年まで3大会連続の全国大会金賞。さらに、2009年より2015年まで6大会連続（2012年は規定により不出場）、2018年より2021年まで3大会連続（2020年は未開催）で全国大会金賞を受賞し、通算14度の金賞を受賞。

発足時より、定期演奏会やファミリーコンサートの開催、イベントへの出演やレコーディングなど広範な活動を続けており、東日本大震災の被災地支援の

一環として、2011年5月に千葉県旭市で「復興応援コンサート」を、2013年4月には福島県南相馬市にて「福光の春コンサート」を開催。2014年4月には創価学会青年部が推進する文化・平和運動である「SOKA グローバルアクション」の一環として、岩手県大船渡市、釜石市、宮古市で、同年11月には宮城県多賀城市、石巻市、名取市、2016年1月には福島県福島市、須賀川市、2017年1月には岩手県宮古市、盛岡市、2018年3月には熊本県熊本市、宇土市、菊池郡菊陽町、12月には宮城県富谷市、仙台市、2019年11月には宮城県仙台市、大崎市、栗原市において「希望の絆コンサート」を開催。

楽団員は、首都圏に在住する青年メンバーで構成されている。



## 常任指揮 中村 睦郎

Mutsuo Nakamura

1967年山口県下関市出身。1990年国立音楽大学音楽学部器楽科(ユーフォニアム専攻)を首席卒業。矢田部賞受賞。同大学卒業演奏会、ヤマハ金管新人演奏会、読売新人演奏会に出演。

1990年から18年間にわたりシエナ・ウインド・オーケストラユーフォニアム奏者として活躍し、2008年に同楽団を退団後は指揮者として新たな道を歩み始めた。

2015年より東京音楽大学音楽学部音楽学科(作曲指揮専攻)において指揮を学ぶ。

1998年以来全日本吹奏楽コンクールに25回出場し金賞を20度受賞。2013年には全国大会出場15年となり、全日本吹奏楽連盟より長年指揮者賞を授与された。

これまでに仙台クラシックフェスティバル、A.リード没後10年記念「リード×シエナ」演奏会、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2017等に出演し好評を博す。

2016年に「リード×シエナ」のライブCDが(株)ソニー・ミュージックエンタテインメントよりリリースされた。

ユーフォニアムを三浦徹、吹奏楽を小澤俊朗、指揮を広上淳一、田代俊文の各氏に師事。

現在、創価グローリア吹奏楽団常任指揮者。

## 団内指揮者 柏木 正信

Masanobu Kashiwagi

創価グローリア吹奏楽団 団内指揮者。1980年東京都台東区出身。東京音楽大学音楽学部器楽専攻卒業後、東京音楽大学作曲指揮専攻として研鑽。指揮を広上淳一、時任康文、甲斐正雄の各氏に師事。

2016、2017年に民音主催、韓国で行なわれた国際指揮者講習会において尾高忠明、チョン・チヨンの各氏に師事。その際に行なわれた優秀選抜者による演奏会において2年連続で指揮。

2021-2022年、劇団四季「オペラ座の怪人」ミュージカル指揮者を務める。

現在、都立国際高校講師、創価大学パイオニア吹奏楽団サウンドトレーナー。





第 1 部

マーチ「カタロニアの栄光」

*March "Glory of Catalonia"*

作曲: 間宮 芳生  
Michio MAMIYA

吹奏楽のための交響詩「波の見える風景」

*Symphonic Poem SEASCAPE for Band*

作曲: 真島 俊夫  
Toshio MASHIMA

ポップス描写曲「メイン・ストリートで」

*On Main Street*

作曲: 岩井 直溥  
Naohiro Iwai

吹奏楽のための風景詩「陽が昇るとき」

*Scenery Poetry-Idyll for Wind Orchestra "As the Sun Rises"*

作曲: 高 昌帥  
Chang Su Koh

— 休憩 —

第 2 部

レイダース・マーチ

*Raiders March*

指揮: 柏木 正信  
Masanobu Kashiwagi

作曲: J. ウィリアムズ  
John Williams  
編曲: P. ラヴェンダー  
arr. Paul Lavender

オペラ座の怪人

*The Phantom of the Opera*

作曲: A. L. ウェバー  
Andrew Lloyd Webber  
編曲: J. デーメイ  
arr. Johan de Meij

指揮: 中村 睦郎  
Mutsuo Nakamura

星屑パレット

*Stardust Palette*

作曲: 芳賀 傑  
Takashi Haga

吹奏楽のための協奏曲

*Concerto for Wind Orchestra*

作曲: 高 昌帥  
Chang Su Koh



## 第1部

### マーチ「カタロニアの栄光」

演奏会の最初を飾るのは間宮 芳生<sup>まみや みちお</sup>作曲、《マーチ「カタロニアの栄光」》です。

この作品は1990年の全日本吹奏楽コンクールの課題曲として作曲されました。間宮氏は映画「火垂るの墓」の映画音楽を担当した作曲家でもあり、その作曲は、管弦楽、吹奏楽、器楽、声楽、合唱、オペラと多岐に渡ります。1992年に紫綬褒章、1999年には勲四等旭日章を受賞されています。

「カタロニア」とは、スペイン北東部に位置するカタルーニャ州<sup>カタルーニャ</sup>のことで、5件の世界遺産を擁する歴史的・文化的に発展を遂げた都市です。州都バルセロナには建築家アントニ・ガウディ設計のサグラダ・ファミリアがあり、間宮氏はこの曲を「カタルーニャ出身であるガウディに捧げる曲」としています。

マーチと言うにはやや遅めのテンポ設定と、変拍子を思わせる複雑なリズムの交わり、長調・短調とは少し違った旋法により、異国情緒あふれる旋律が感じられるでしょう。曲の中間部では、低音の保続音に重なる木管楽器のメロディーがバグパイプを彷彿とさせられたかと思うと、冒頭部の華々しさを感じる旋律で締めくくられます。

演奏時間が短い曲ながらも随所に散りばめられた間宮氏のガウディへの想い、曲作りに込めたアイデアをお楽しみください。(平井 隆之介)

### 吹奏楽のための交響詩「波の見える風景」

この作品は、1985年の全日本吹奏楽コンクールの課題曲として発表されました。当時の人々はどうのような思いで演奏をし、聴き、何を思ったのでしょうか。

私はこの作品を初めて聴いた時、美しい波の風

景と、生命を育む「海」、そして移ろいゆく心とが重なっていくのを感じました。

音楽によって「波の見える風景」が心の中に映し出され、ダイナミックに揺れ動いていきます。その流麗でドラマチックな音楽は当時の人々の心を大きく動かしたに違いありません。そしてまた、この「交響詩」に込められた文学的で絵画的なメッセージは、今も色褪せず私たちに語りかけてられています。(中西 優)

### ポップス描写曲「メイン・ストリートで」

この作品は1976年の全日本吹奏楽コンクール課題曲として、日本の吹奏楽ポップスの父といわれる岩井 直博<sup>なおひろ</sup>氏によって作曲されました。課題曲としてドラムセットやエレキベースが入ったポップス調の楽曲が取り上げられることは珍しく、発表から46年が経過した今でも、岩井氏が作曲した課題曲の中で人気の一曲です。

岩井氏は、当時住んでいた東京都中野区のブロードウェイ商店街にあるメインストリート(大通り)の一日をこの曲に表したと述べられています。

時は1970年代、日本経済が成長していく中で、人々は大きな夢や希望を胸に、毎日をいろいろな思いで過ごしていたことでしょう。その時代背景の中、多くの人が行き交う大通りの一日(夜明け～朝～昼～夜)を描写した曲となっており、曲の中では車のクラクションをトランペットが表現するなど、よくよく耳を凝らして聴いてみると、多様な一日の光景が浮かんでくる面白さを感じていただけることでしょう。

この曲を聴きながら、楽しい街並みとそこを通る人々の雰囲気、ワクワクするリズムとメロディーで連想してみてください。(佐久間 大毅)



## 吹奏楽のための風景詩「陽が昇るとき」

作曲者の高 昌帥こう ちゃんすは、現代の日本吹奏楽界において最も名高い作曲家の一人です。全日本吹奏楽コンクールの課題曲として作曲された《吹奏楽のためのラメント》(2001年)や《吹奏楽のための「ワルツ」》(2018年)が著名なほか、《ウインドオーケストラのためのマインドスケープ》(2005年)など数多くの作品も高い人気を誇っています。

その作品たちは、高氏のルーツである朝鮮半島の伝統音楽の要素を用いることが多く、重厚でスケールの大きな作風が特徴的といえます。

《吹奏楽のための風景詩「陽が昇るとき」》は、2002年から2004年までの間の異なる時期に作曲された4つの作品が、作曲者自身の手によりまとめられた作品となっています。それぞれ委嘱団体も異なりますが、共通する音楽素材が用いられることにより、全体の統一が図られています。

本日は、I.「衝動」、II.「情緒」、IV.「陽光」から抜粋して演奏します。

I.「衝動」——トランペットによる輝かしいファンファーレと、それを瞬時に打ち消すかのような中低音群の轟音こうおんで劇的に幕を開けます。総奏による激しい前奏に続き、唸るような性格の第一主題が表れます。

II.「情緒」——元は「諧謔かいぎやくのとき」と名付けられた楽曲で、組曲としての構成に当たり改題されました。諧謔かいぎやくの名が示すとおり、スケルツォ(※イタリア語の「冗談」に由来する軽快な音楽で、諧謔曲と訳されます。)の楽章として位置付けられています。一貫して6/8拍子で記譜されていますが、3/4拍子や小節を跨いでの3/2拍子などが混在し、常に不安定で複雑なリズムとなっています。

IV.「陽光」——フィナーレとしての楽章で、当初は「陽が昇るとき」と題されていました。フルートとア

ルトサクソフォンのソロによる前奏、安定した調性を持つ部分、テンポの速い主部と、3つの要素からなっています。やがて辿り着く壮大な終結部は、まさに陽が昇る瞬間を思わせるように感動的です。

(戸田 光彦)

## 第2部

### レイダース・マーチ

本年夏、アメリカの人気アクション・アドベンチャー映画「インディ・ジョーンズ5」が公開予定です。本作品は、その「インディ・ジョーンズ」シリーズの第1作目「レイダース/失われたアーク<聖櫃>」のテーマ曲です。

作曲は「スター・ウォーズ」の音楽などを手掛けるジョン・ウィリアムズが担当し、彼の代表曲としても知られています。その後公開された「インディ・ジョーンズ」シリーズでも全編にわたって本曲が使用されてきました。私は「インディ・ジョーンズ」シリーズを今まで観たことがなく、今回演奏するにあたり全4作品を鑑賞しました。ハリソン・フォード演じる考古学者インディアナ・ジョーンズが、数々の難所を乗り越えていくときにこの曲が流れると、とてもワクワクとした気分になりました。

前半部の華やかなトランペットのメロディーに打楽器の迫りくるようなリズム、中間部の金管楽器と木管楽器の流れるような豊かな音色、後半部のクライマックスに向かう豪華な音律を、ぜひ自分が冒険者となったような気持ちでお楽しみください。(佐久間 大毅)

### オペラ座の怪人

フランスの作家ガストン・ルルーが小説「オペラ座の怪人」(Le Fantôme de l'Opéra)を発表



(1906年)してより、約100年。多くの人々が舞台や映画でこの作品を取り上げてきました。とりわけ、1986年にロンドンのハー・マジェスティーズ劇場で初演されたミュージカルでは、「キャッツ」などの音楽を手がけたアンドリュー・ロイド・ウェバーの音楽によって、怪奇小説と呼ばれた「オペラ座の怪人」に魔法がかけられたようです。ロイド・ウェバーの音楽とハロルド・プリンスの演出、そして豪華な舞台衣装や美術によって、実にロマンティックで心を奪われるラヴストーリーに生まれ変わりました。

劇的で重厚なサウンドから、時に美しく切なく、そしてやさしくどこか懐かしいロイド・ウェバーの音楽に私たちはずりりと心を掴まれることでしょう。地下にひそんでいるオペラ座の怪人も密かに耳を傾けているかもしれません。(中西 優)

## 星屑パレット

2018年、フランスで開催された第6回クードヴァン国際交響吹奏楽作曲コンクールで第1位および聴衆賞を受賞した芳賀 傑氏。この受賞作品《水面に映るグラデーションの空》の終結部にあるコラールをもとに、このコラールの部分だけを独立させて小品となったのが、《星屑パレット》です。

2016年に作曲された《水面に映るグラデーションの空》は、2011年の東日本大震災、芳賀氏のパリ留学中に起こった2015年のパリ同時多発テロの悲しみをテーマに、「平和とは何か」を問う作品です。芳賀氏は「私にできる唯一の事は、優しい音を書く事だった」と語っています。

静寂で満ちたビブラフォンの中から、ひとつの音(As音)が現れ、それが波紋のように広がっていき、断片的だった響きが少しずつ旋律を形成し、その旋律もまた楽器が重ねられることで響きが増し

ていく。流した涙が夜空を映す水面に落ちて、星屑となつてきらきらと煌めく—そんな情景を思い浮かべながらお聴きください。(設楽 正義)

## 吹奏楽のための協奏曲

大阪音楽大学の創立100周年を記念して委嘱された作品で、高 昌帥こう ちゃんす氏の本領が存分に発揮された1曲です。曲全体は5つの楽章からなり、主要ないくつかのモチーフを軸に、各楽章が連関をもって結びつくように緊密に構成されています。

I. Maestoso — マエストーゾ 力強く、祝祭的なファンファーレ。特徴的な同音の連打は、この作品全体を通して頻繁に現れます。

II. Pregando — プレガンド 祈るように、と題された緩徐楽章。アルトフルートが呪術的・東洋的な祈りを奏でます。

III. Scherzoso — スケルツォーソ 朝鮮半島の伝統音楽で用いられるリズムのひとつ、チャンダン(長短)が用いられた、ユーモラスな気分の楽章です。

IV. Affettuoso — アフェットゥオーソ 愛情を込めて。木管楽器が哀切な旋律を歌い継いでいくが、その旋律も終楽章で重要な意味を与えられます。

V. Festivo — フェスティヴォ これまでに出了た重要な要素が総動員される他、急速な5/8拍子のリズムによるアンサンブルなど、高度な技術が求められます。最後は第1楽章のファンファーレが再現し、作品全体が強固なアーチ型の形式で書かれていることが改めて示されます。

私達は、昨年10月に行われた全日本吹奏楽コンクールで本作品を演奏し、金賞を受賞することができました。半年以上の時間をかけて練習してきたこの作品を、本日の定期演奏会で再び演奏ができることを嬉しく思います。(設楽 正義)